

例1:文化体験
干し柿づくり

プログラムに参加

子どもに日本の文化を伝えたい

子どもに日本の郷の暮らしを体験させたくて、親子で干し柿づくりに参加しました。
(大阪在住: Nさん)

地元住民にも懐かしい体験

昔し家でも作っていたので、懐かしくて参加しました。また家でも干し柿をつくってみようかと思いました。
(地元住民: Uさん)

日本観光で文化を体験

日本の郷の文化に触れたくて、参加しました。いい思い出ができました。
(外国人旅行者: Jさん)

パーククラブの活動

干し柿体験の準備・運営

干し柿を吊るすヒモや竹竿も出来るだけ公園にある自然のもので準備しました。
(パーククラブ: Sさん)

カキの木の保全・手入れ

恒例の干し柿づくりに皆さんに喜んでもらうために、園内の柿の木の手入れをしています。
(パーククラブ: Yさん)

プログラムを持ち込み

干し柿を使ったプログラム
「和菓子づくり体験」の提供

来月は、出来上がった干し柿を使って、和菓子づくりを体験するイベントを開催します。
(地元和菓子店: Fさん)

カキをテーマにしたプログラム
「朗読会」の提供

カキにまつわる童話や俳句などを紹介する朗読会を企画しました。
(元国語教師: Mさん)

例2: 環境学習・自然体験
水辺の観察モンドリ大作戦

プログラムに参加

学校の環境学習でモンドリ体験

毎年、環境学習の授業で水辺の生き物観察出来るモンドリ体験を利用しています。学校ではできない体験を子ども達にさせてあげられるので、嬉しいです。
(小学校教師: I先生)

孫と夏休みの自由研究に利用

夏休みで帰ってきている孫と一緒に来ました。夏休みの自由研究にいいですね。昔はよくモンドリで魚を捕っていたので、孫にいいところを見せたいと思います。
(地元住民: Bさん)

パーククラブの活動

モンドリを提供

モンドリをパーククラブで作成しています。公園の竹を使ったモンドリづくりに挑戦したいです。
(パーククラブ: Nさん)

水辺の生き物紹介を実施

モンドリ体験で捕れた水辺の生き物の説明などを、担当しています。子ども達から質問責めにされて、嬉しい悲鳴です。
(パーククラブ: Kさん)

プログラムを持ち込み

学生による環境アート展示

ため池や日本の文化をテーマにした環境アートを、「郷」が感じられるこの公園に展示したいと思いました。来月から展示させていただき、アートワークショップも開催する予定です。
(大学生: Gさん)

例3: マーケット
郷の日曜日

プログラムを持ち込み

企業によるプログラム提供
「農機具乗車体験」

地元の方や、海外からのお客さんも来られるので、自社の製品PRを兼ねて、農機具の乗車体験を日曜市の開催にあわせて、実施させていただいています。
(農機具会社: Y社)

企業によるプログラム提供
「自転車健康生活コーナー」

自社の製品PRを兼ねて、最新自転車の乗車体験や、周辺を巡るサイクリングプログラム、交通マナーの案内、自転車を使った健康ライフを提案するコーナーを、日曜市の開催にあわせて設置させていただいています。
(自転車製造会社: S社)

公園の材を使ったプログラム
「もちつき大会」の開催

年末の日曜市にあわせて、公園で採れたもち米を使った「もちつき大会」を企画しています。普段は、ホストとして、園内棚田でのもち米づくりをサポートしています。
(地元農家: Hさん)

会場づくりに関する参加「のぼり」
公園の材を使ったプログラム提供「草木染教室」

日曜市の会場を彩る「のぼり」を染めてみました。草木染教室も公園で年数回開催しています。
(地元染色家: Fさん)

地場産業会社の特産出品

地場産業の良さを知ってもらいたくて、泉州タオルを出品しています。
(地場産業会社: S社)

地元農家の野菜出品

地元の野菜を出品させていただいています。日曜市が、地元と公園の活気づくりに一役買ってくれるのではないかと期待しています。
(地元農家: Aさん)

パーククラブの活動

パーククラブによる公園の特産出品

園内で採れる山野草や野菜などを市に出品しています。売り上げは、公園の管理運営に関わるパーククラブの活動資金にしています。
(パーククラブ: Tさん)

新鮮で安全な地元食材を買いに

土が着いた新鮮な野菜や、地域産の食材を買いに、毎回来ています。
(大阪在住: Oさん)

日本のお土産を買いに

フライトまで時間があるので、立ち寄りました。特産の泉州タオルをお土産に買いました。日本の里山にも来られて嬉しい。
(外国人旅行者: Dさん)

例4: 郷のしごと体験
間伐材でしいたけのホダ木づくり

パーククラブの活動

間伐材・ほだ木の準備

公園のよりよい環境づくりに取り組んでいます。今回は、間伐材を使ってしいたけのほだ木づくりを子どもたちに教えました。しいたけができるのを楽しみに、また遊びにきてほしいです。
(パーククラブ: Mさん)

資材の提供

泉佐野丘陵緑地の環境づくりにお役に立てればと、農機具を提供しています。当社の資材を使った管理活動により山がきれいになっていくことに加え、資材を活用したくさんの方が参加されたプログラムのレポートなどをいただき、やりがいを感じています。
(農機具会社: Y社)

プログラムに参加

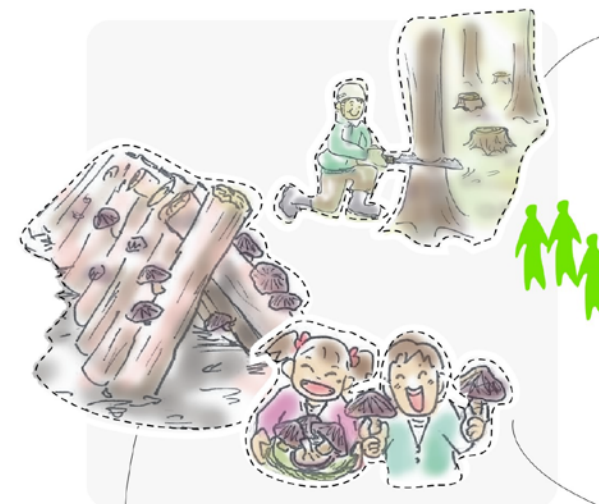
親子でほだ木づくり体験

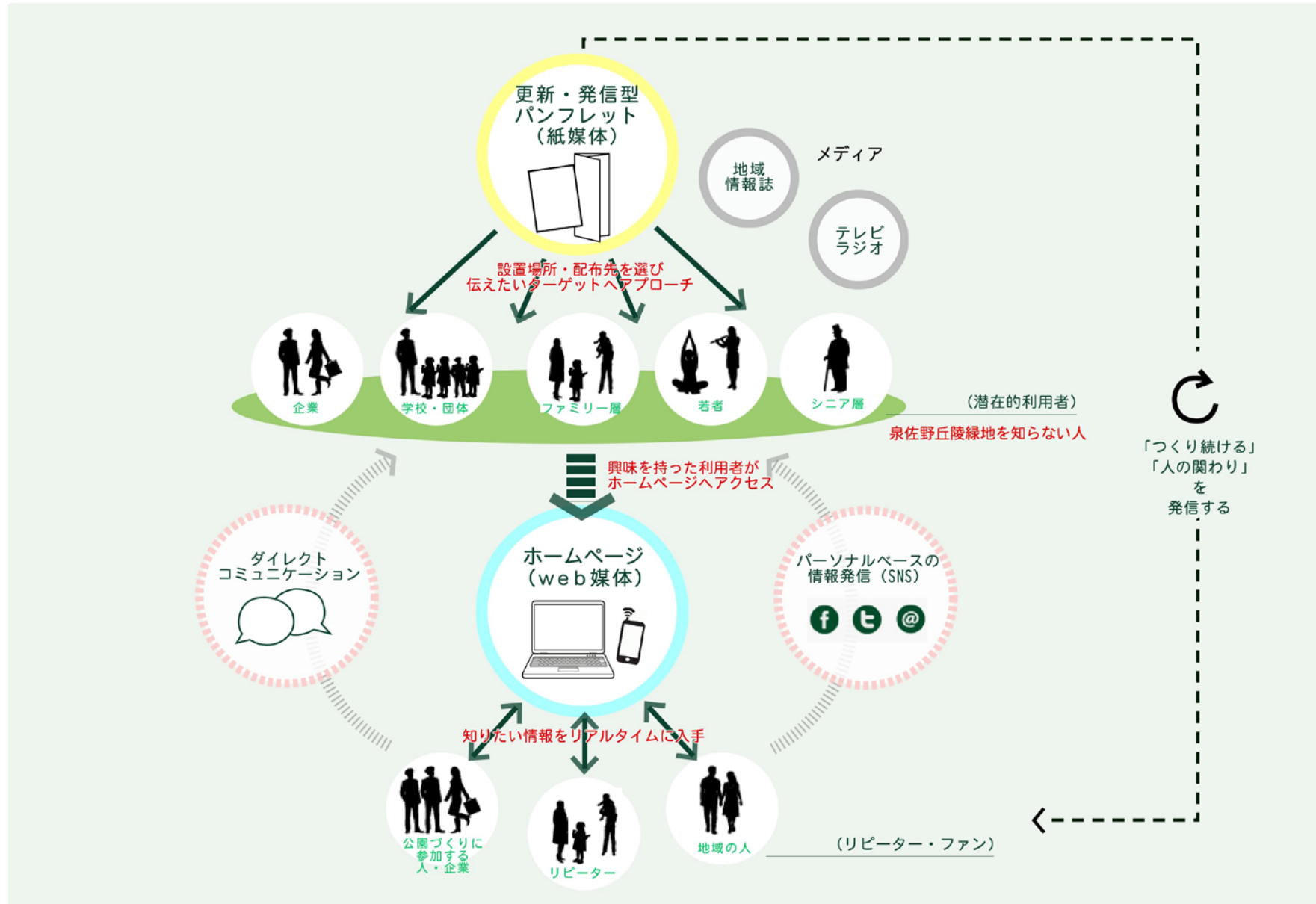
週末は、木漏れ日を感じながらハンモックに揺られて過ごすのが定番です。子どもは虫捕りに夢中です。家族で1日ゆっくり過ごせるのがいいですね。
(地元住民: Eさん)

プログラムを持ち込み

しいたけをおいしく食べる
アウトドア料理のプログラムを提供

泉佐野丘陵緑地でしいたけを栽培されているの知って、その場でみなさんに食べていただけるように、素材の味をぎゅっと凝縮させる、簡単なアウトドア料理レッスンを行いました。
(地元住民: Uさん)





開園に向けて作成する プロモーションツールの方針

パンフレット

●まず泉佐野丘陵緑地を知ってもらい、「他の公園と違う公園、おもしろそう」と興味を持ってもらうためのツールとして作成。

●周辺施設や学校、駅などに配布するとともに、地域や企業に声をかけ、協働していくための説明資料、考え方を共有するツールとしても使用。

●ゆくゆくは、数年毎に内容を更新していき、「つくり続ける公園」の歩みの記録として蓄積していけるパンフレットを検討する。

どんな公園か、つくりかたや使い方がどう新しいか、どうしたら参画できるのかなど、コンセプトから参画の仕方までの流れを分かりやすく伝える。

ホームページ

●どのような関わり方ができるのか、パンフレットには掲載しきれない詳細情報までを掲載。

●日々の活動や成果、四季の風景などリアルタイムな情報を発信。

マップ

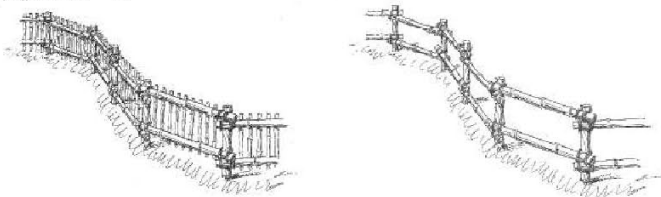
●散策するときのガイド機能を持つ「散策マップ」(サインの位置や、見どころ情報を掲載したもの)と、泉佐野丘陵緑地を目指す、さまざまな人の関わりにより「郷」のプログラムが展開されるイメージを伝える「コトマップ」を両面に印刷し配布。またはホームページ上で公開。

	メディア	パンフレット (紙媒体)	ホームページ (web媒体)	目的別ツール
アプローチ	「なんとなく目にする・耳にする」 ターゲット・テーマを絞ったアプローチ	「手にとってもらおう」「手渡す」 対象を絞った直接的なアプローチも可	「検索する」 利用者自らのアクション	・散策マップ ・企業向けパンフ ・学校向けパンフ ・イベントチラシ など
情報の鮮度	やや高い その期間に伝えたいことに絞る	低い 数年毎更新 (つくり続ける公園の記録も兼ねる)	高い リアルタイムな状況を反映	
特徴・利点	○発信性 ○インパクト ○すりこみ効果 ○テーマ性	○バリアフリー ○メッセージ性 ○形(物)として残る ○一覧性 ○完結・シリーズ	○現代性 ○双方向コミュニケーション ○更新される ○連続性 ○継続・蓄積	
機能・役割	伝えたいことを絞って直球で伝える 興味・関心・記憶を起こす 行動を喚起する	イメージを直感的に伝える 興味・関心・記憶を起こす 行動を喚起する	正確な情報を提供する 興味・認知・記憶を深める 行動を促す	

■ 水辺の広場 整備方針図(安全対策の検討) ■

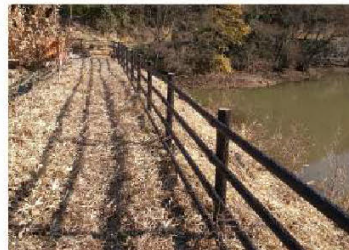
①望みの丘の北側斜面地内
 目的：望みの丘から北側急斜面地や向井池水際への立ち入りを制限するために設置。
 場所：望みの丘の北側斜面地の中腹部。林の中に目立たないように設置。
 施設：竹柵又は既製品の柵
 竹柵—現地の竹を用いて竹柵を製作し設置する。
 既製品の柵—景観に配慮した柵を選定。
 また、現況への負荷が軽減される工法を選定。

竹柵のイメージ

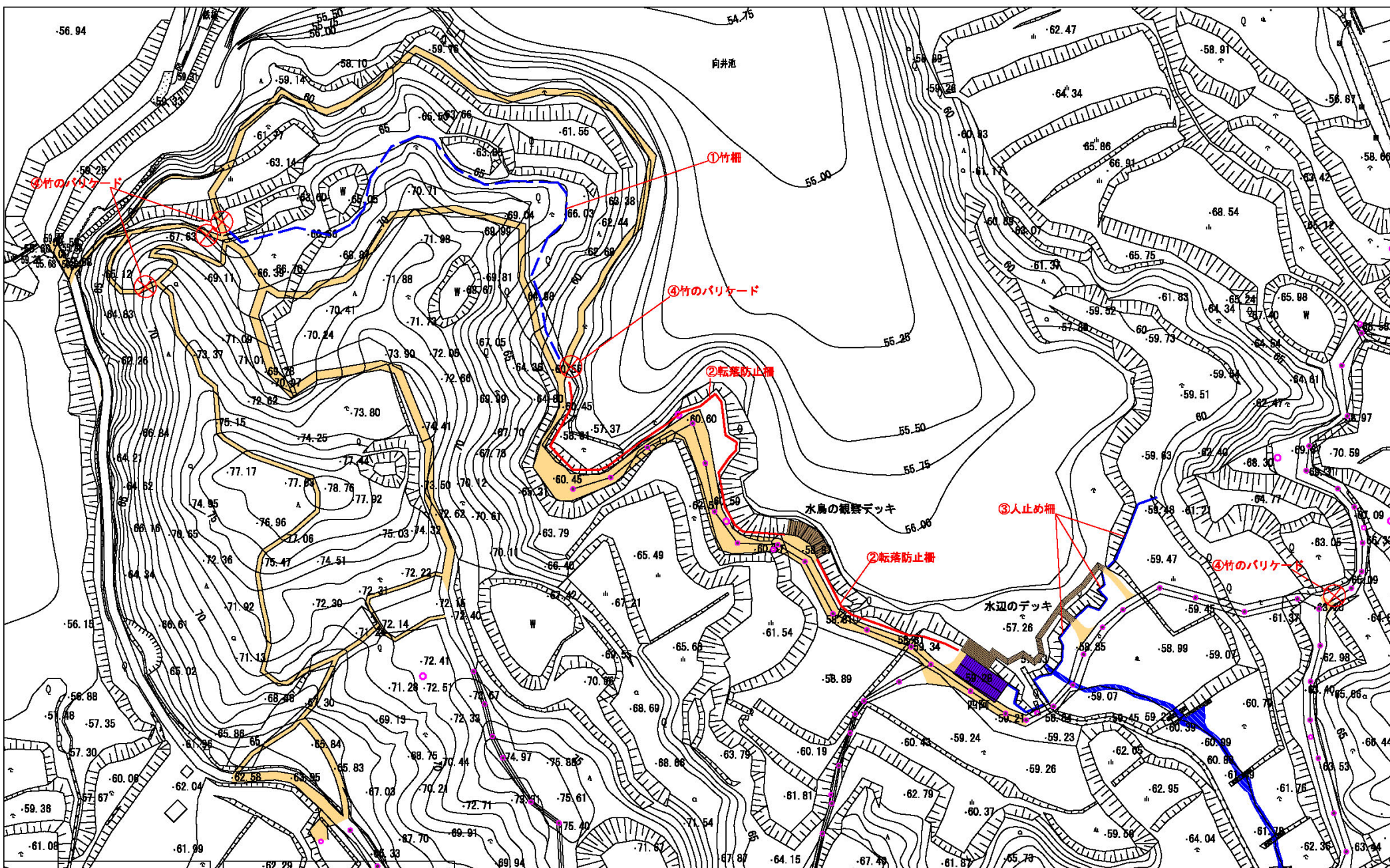
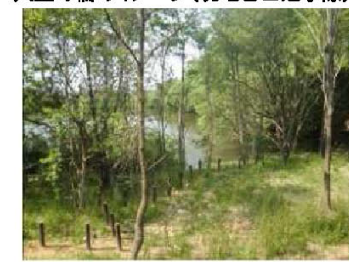


②向井池の急な水際・護岸
 目的：水際の園路の利用者の安全確保、転落防止のために設置。
 場所：水際の拠点（四阿）付近から北側。護岸が急な崖になっているところに設置。
 施設：既製品の柵—緑地内のデザイン統一を考慮し、向井池対岸や谷口池と同等の擬木柵。
 池への見通しを確保し、景観に配慮した柵を選定する。
 また、現況への負荷が軽減される工法を選定。

擬木柵のイメージ
(現地谷口池の柵)



③緩やかな水際・護岸
 目的：池の水際への緩やかな安全啓発と無秩序な立ち入りを制限するために設置。
 場所：疎林の広場の池水際付近。
 施設：人止め柵—木の丸太にロープを渡した形状で、高さは80cm程度に抑えた擬木柵。
 デザインを統一し、谷口池と同等品とする。
 人止め柵のイメージ(現地谷口池水際)



④人止めバリアード
 目的：園路の利用を規制するために設置。
 場所：未開園区域への園路入り口。
 管理用通路への入り口。
 (護岸の危険区域、カワウの区間)
 施設：竹のバリアード
 —現地の竹を地要してバリアードを製作。
 なお、パーククラブとの協働製作も検討。

竹のバリアードのイメージ

